

ひきこもり「焦らず待って」

四万十市の男性 経験語る

【幡多】ひきこもりから社会復帰した四万十市藤岡甲、景平公彦さん(38)がこのほど、

同市不破の市防災センターで開かれた支援者向け研修会で経験を語り、「支援者には焦りもあるだろうけど、本人は一生懸命だと思う。待ってあげてほしい」と訴えた。

研修会は12日、県西南地域精神障害者家族連合会などが開催。市

町村職員や民生児童委員ら約60人が参加した。

景平さんは2011年、うつ病をきっかけに仕事を辞めた。投薬治療に専念するうちに「家の外に出る理由がなくなり」、13年から3年間ひきこもったという。現在はリモートワークで県外企業に勤めている。

回復の経緯について最初は深夜、コンビニ

二へ漫画の立ち読みに行くところから。しょうもないかもしれないが、自分にとっては大

きな一歩だった」と振り返った。また「ひきこもりの人も本当は、何かしたいと思っ

てるのでは。身勝手なお願ひですが、見捨てないでほしい」と呼び掛けた。

このほか、県が昨年度に実施したひきこもりに関する実態把握調査の結果や、県ひきこもり地域支援センターの活動が紹介された。

(河本真澄)



「ひきこもっている頃は、髪も伸び放題だった」と語る景平公彦さん(四万十市不破)